

片品・日光農業宿泊体験学習取組みと現況

よこすか葉山農業協同組合
(JAフローラ旅行センター)

1 実施概要

本体験学習は、現在横浜市内の小学校6年生を対象に修学旅行を兼ねて実施している農業宿泊体験学習です。横浜市内の小学校では、横浜市小学校長会主催の「日光修学旅行」（通称「悌団」）を実施しているところが多く、本体験学習は悌団「日光修学旅行」のよさを生かしつつ、その課題を克服しながら継続して実施をさせて戴いており、現在では25の学校からご理解を頂戴し、約3,000名宿泊延べ人数6,000名の児童が、最終学年の“まとめ”として交流『ふれあい』農業宿泊体験学習を核に食農教育へ導いた体験構成で多くの学校教諭から支持を戴き参加戴いております。

○参考日程・内容

1日目

(東海道線・横須賀線の各校最寄り駅・根岸線各駅・横浜線各駅) から出発
JR団体専用列車利用で車内は各校自由行動・おやつ昼食後→群馬県沼田駅
沼田駅出発・民宿のマイクロバスに分乗(移動許可取得済み)→武尊牧場へ
リフト又はバスを利用して武尊高原山頂へ 高原山頂で入村式
ブナの原生林を散策し、自然の音を感じ森の働きを学習・ネイチャーゲーム・
→リフト又はバスで武尊牧場下のバス乗り場から→各民宿へ
各民宿で夕食と入浴(源泉掛け流しの温泉)
(農家の方と夜の体験)

施設毎に実施<星空観察、肝試し、ほたる観察、村人によるお話の会・片品民話の会、宿舎オーナーとの交流、キャンプファイヤー、暗闇体験>

2日目

午前と午後で各種選択体験2コマ・体験場所「現地の耕作放棄地」の畑の開墾と季節に合わせた野菜類の植え付けと収穫体験
体験指導は地元の農家の方々・教師は児童管理・スタッフは連絡調整と活動場所全域の安全管理と実施前確認

『実施体験』

□農業体験

植え付け・収穫体験(大根収穫・トマト・高原レタス・キャベツ・トウモロコシ・リンゴ・アスパラの収穫・トウモロコシ植え付け・田植え・稲刈り・花豆収穫選別)

□林業体験(ミニ炭焼き・森林作業体験)

昼食は民宿の手作り弁当又はカレーライスを各民宿又は体験場所で
各民宿で夕食と入浴(源泉掛け流しのお風呂)

□自然体験(沢登り源流湧水体験・魚つかみ塩焼き体験・森林入浴体験・キノコ狩り等)

□食の体験(そば作り・うどん作り・ラーメン作り・郷土料理作り・ピザ風たらし焼き石釜パン・ピザ作り・アップルパイ作り・ジャム作り・こんにやく作り)

*こんにやく作り・アップルパイは期間限定



□問題解決型体験(河原でのかまど・火お越し・郷土食作り)

* (夜の体験) 各校で実施(星空観察、肝試し、ほたる観察、片品民話の会、宿舍オーナーとの交流、キャンプファイヤー、暗闇体験・アルプホルン体験)

□作る体験(押し花作り・つる取りとリース作り・陶芸・土器作り・竹細工・稲わら細工・ネイチャークラフト・木工教室)

3 日目

片品出発(8時頃)→金精峠→日光戦場ヶ原→華厳の滝(見学)→日光東照宮(グループ行動)→休憩店で昼食・買い物→日光宇都宮道路→東北自動車道→SAでトイレ休憩→首都高速道路→各学校(16:30~17:30頃到着)(貸切観光バス)

2 実施までのいきさつと経過

本体験学習は、平成16年に企画提案した小学校6年生用の農業宿泊体験学習が始まりで、それ以前は、横浜市小学校長会主催の「日光修学旅行」(通称梯団)で実施されていましたが……

- ①観光旅行化が進み教育旅行本来の“ねらい”が達成出来なくなっていること
- ②費用対効果に疑問を感じ始めていること
- ③実施時期が学校毎の年間行事計画にあてはめられないこと

等の理由により各学校でさまざまな場所での体験学習が模索されていました。これらの課題を解決すべく提案したのが「片品・日光農業宿泊体験学習」であります。自然の中で様々な体験活動が出来ること、現地の人たちと関わること、出来るだけ安価な費用で実施できること、全行程で児童の安全確保が保たれること、そして保護者が望む日光に近いこと等で実施に至りました。現地受け入れ先である民宿組合受入協議会とも連携を密にして保護者が望む体験学習実施の為に、農業体験を核として可能な限り活動の企画を提案いたしました。

また、宿舍も現地の農家民宿を利用し、安価であたたかい人との交流が行われるよう環境を整えました。その結果、当初1校で実施していましたが27年度には学校数で25校3,000名・宿泊延べ人数で6,000名の参加で実施しております。そして、今後も増加傾向にあり2年後の平成29年度には30~40校の取り組みが予定されております。

3 費用

現在 児童1人あたり¥21,000~27,000(各学校により異なる)

内訳概要	22,000円	モデル
宿泊費用	11,500円	(民宿2泊消費税を含む)
JR運賃	1,900円	(専用電車・横浜~沼田 子ども)
バス・有料道路	3,000円	(片品~日光~横浜人数により変動)
体験費用	1,000円	(選択体験をする場合)
その他経費	3,000円	(昼食代、保険代、看護師費用等)
見学科等	1,600円	(日光東照他・駐車場、等)

4 ねらい

集団行動や集団宿泊などで校外の自然や文化・農業・人々の生活などに触れ、友達と仲良く協力し、「めあて」にあった計画を立て、規律ある集団生活を通して、友達との交流や連帯感を深めると共に、進んで学校生活を楽しく豊かなものにしようとする事が出来るようになることを「ねらい」としております。

※参考

小学校学習指導要領「総合的な学習の時間」から

第3の2(3) 自然体験やボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験、見学や調査、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること。

同(4) 体験活動については、第1の目標並びに第2の各学校において定める目標及び内容を踏まえ、問題の解決や探求活動の過程に適切に位置づけることとされており、特に本体験では、友達との交流、自然体験、集団生活での決まり等、他に体験場所である地域の人たち(宿舎オーナー、その家族、インストラクター、関係職員等)との交流を深め、農村の生活、文化・考え方に触れさせると共に村の人のよさ、その生き方のすばらしさに触れてもらうことに「ねらい」をしております。

5 活動組織

○運営委員会の設置

本体験では、各学校間での連絡調整・情報交換、現地との連絡調整・情報収集、各課題の改善、リスク分散方法、費用の軽減、下検分実施等のために「片品・日光農業宿泊体験学習運営委員会」を設置して戴き、各学校が合同で計画と調整を行えるようにしております。運営委員は各校校長で組織し、校長自らが主体的に考え、計画することが出来るようにしております。運営委員会は年3回、内1回は校内担当教諭を交えた実務者会議とし、体験実施前に具体的な計画を持ち寄って各校の連絡調整を行っております。

会長は互選で決めております。副会長3名で会長を補佐し(総務・研究と研修・会計)を担当して活動を継続しております。

6 安全対策・危機管理対応

◇他の宿泊体験活動のこれまでの事例と対処方法について研究・シュミレーションを行い、児童が安心して心に残る農業宿泊体験活動に参加できるよう、安全対策と危機管理対応体制を整えております。また、緊急対応図を作成し、これに沿って緊急時における対応ができるよう訓練の実施も行います。

◇現地対策本部：村役場の協力を得て実施校校長・旅行会社・体験学習コーディネーター・現地スタッフが中心になり偶発的重大事故・事件・災害に対応・対処できるように体制を整え現地対策本部の設置をいたします。

◇横浜対策本部：運営委員会会長が中心となり運営委員会役員が、重大事故・事件の一報を受け対応を協議し、教育委員会・当該学校職員が連携をもって保護者との連絡にあたるように体制を整えております。

◇災害時通信手段としては「アマチュア無線」を有効に活用し、携帯電話等の通信手段に障害が発生した事を想定して、片品基地局より地元基地局を通じて各学校へ情報伝達が行えるよう整備を急いでおります。

◇病気・けが等の軽度なものについては駐在看護師の判断で現地病院・診療所を利用しております。重度の対応については沼田中央総合病院へ救急車搬送または看護師同行の上でスタッフが移送しております。緊急を要する場合にはドクターヘリの要請もできるよう整えております。近頃、学校によっては安易に病院へ搬送しようとする傾向が少なくはありません。

○不審者対応

旅行会社及び現地スタッフで宿舎周辺の夜間（午前2時まで）パトロールを行っています。実施を始めてこの10年間不審者情報はありません。

○衛生面での対策・注意

食中毒等が発生しないよう各宿舎には、定期的な自己点検実施と現地宿泊施設で構成されている受け入れ協議会がこれの検証にあたることとし、注意を促しております。また、学校・児童には手洗い・うがいの励行、宿舎での食事のお手伝い等もマスク・エプロン等の着用で活動するよう指導を徹底しております。近年宿舎によってはハウスダスト・ほこりによるぜんそくの発生があり宿舎に対してはふとんの乾燥、空気清浄機の導入・宿舎内の清掃を徹底して行うよう指導しております。

○食物アレルギーへの対応

体験学習実施前に各学校で調査を行い事前把握しています。宿舎と学校が把握した児童の情報を共有し食事等の対応を行っています。また、重度なアレルギー児童については各家庭保護者と宿舎で直接話し合いを持ってもらい、重篤な状態に陥らないように対応しています。

○食事メニューと成分表の提出

3日間の食事メニューを実施前に提出してもらい、出来る限り地場産物を使用した献立で対応していただくようにしております。また、食材の成分表と可能な限り産地を表記してもらい、規制食品については出来るだけ無くしてもらうようにしております。規制食品を使用する場合はメーカー表記も成分表にお願いをしております。

○看護師の駐在について

現在各学校の日常で、様々な事故・事案が発生していることから、養護教諭の同行が各校難しくなっております。そこで、本体験学習では実施期間中に養護教諭の代わりに専属の看護師を現地に常駐させ、病気・けが等に対処しています。養護教諭と違い医療行為が可能なため多少の病気・けがの処置にも対応できるため、各校からも安心感があると大変好評を得ております。

○旅行傷害保険について

旅行会社で付保する旅行傷害保険と学校が加入する学校総合保険との2本立てになっている為、けがを始め物損・保護者のお迎え費用等が担保されているのでとても安心感もてます。骨折・けが等の事故も発生していますが手厚い保険の担保から保護者からのクレームは現在では全く出ておりません。

7 問題点と今後の課題

□評価と改善

本体験学習では、旅行全体の管理と現地受け入れ先での課題解決のため校長を中心に実施各校の意見・要望をとりまとめ、次年度以降の体験学習改善に役立てております。アンケートは自由記述形式で行っていますが、各校ともほとんどの項目について評価が行われており、その中の問題点や課題点に着目して旅行会社を主として、現地受け入れ先・宿舎・体験インストラクターに検討・改善を要請しています。緊急対応が必要な案件と長期的な展望に立っての改善要項等に分類し、スピード感を持って課題の解決・改善に対応しております。

□効果と課題

- ・本体験学習では、各学校から次の点が効果有りとして評価されています。
 - ①自然が豊かである（国立公園が2つある）
 - ②のんびりした田舎の雰囲気を楽しむ（農家民宿である）
 - ③他では出来ない本物の体験が味わえる（実際の収穫・採集を取入れた体験）
 - ④村人との交流が図れる（人のよさや人々の暮らしに直接触れられる）
 - ⑤安全対策・危機管理体制が整っている（重大事故・事件の対応・看護師駐在、傷害保険対応、全行程安全管理の徹底等）
- ・課題としては以下の点が上がっています。
 - ①体験が片品でなくても出来る物があるので片品らしさが出る体験の充実
 - ②宿泊施設の衛生管理・トイレ・入浴施設等の改善要望
 - ③費用のより軽減
 - ④今まで以上に人との関わりを重視した体験活動が模索出来ないか等の意見が出ているので、一つずつ改善方法を模索しております。

□今後の方向

現地の受け入れ協議会（宿泊施設オーナーの会）と連携して、情報交換を行いながら今後の農業体験学習のあり方や、学校・保護者・子どもの要望を聴き、より高度な体験学習の内容・方法、施設改善、必要なインストラクター等の養成等を継続して実施してまいります。

今現在、受け入れ協議会と運営委員会の研究研修部会では、課題となっている「人との関わり」を重視した体験活動を検討中であります。これは、従来の選択体験ではなく、宿舎のオーナーが中心となり村にある環境や素材をふんだんに使って様々な体験活動を提供するもので、オーナーと子どもたちがより身近に接し、都会では出来ない体験の中から、人のよさや人々の暮らしを実感してもらえるようにと言う意図が有ります。そして、自分の生活や日常の姿を見つめ直してもらえる機会となれば、子どもたちにとって最終学年としてのすばらしい体験学習が期待されるのではないのでしょうか。

